

おてら

# 報恩講

十一月十六日(金)

午前十一時より  
正午 おとき・法話



浄土真宗の「開祖親鸞聖人の御祥月命日に  
「宗祖の「苦勞を偲び感謝し、そのみ教え  
を味あわせていただき、明日の私の生きる  
糧とさせていただきます」法話をします。

ぜひ一度「参加下さい。

常例十六日講  
毎月十六日午後一時より  
お経練習・法話会  
写経会  
毎月第二・四金曜日  
午後一時より

## ありがたい

住職 蒲原 靈 英

ご門主が日本スカウトジャンボリーに臨席された記事を裏面に載せました。一週間のキャンプ生活で、家庭や学校では得られない貴重な体験をさせていただき、真つ黒になつて帰つて来ました。

スカウトのモットーは、万国共通、百年変わらぬ「そなえよつねに」。いつ何が起きても良いように心も体も準備を怠るなという精神です。先日、女優の樹木希林さんが亡くなられましたが、特にがんを宣告されてからの彼女は、死に向けて準備万端整えていました。そして、十分準備した上で、次々と起こってくる事、老いも病も死をも面白がっていました。彼女曰く、「楽しむ」というのはどこか客観的だから、何でも中に入って「面白がる」とのこと。そしてさらに、「がんつてありがたいわよ」とまで言っていました。きつと、死を突きつけられ、それを受け容れることができ、初めて生きる意味や価値を見い出すことができたのでしょうか。だから、そのご縁をくれたがんをも、「ありがたい」と言えたのだと思います。

これは親鸞聖人の「あるがまま」の教えそのものです。なかなか人間はそんなに強くはなく、ついつい辛いこと、苦しいことや困難から逃れようとしてしまいます。面白がるなんてとんでもないことです。でも、決して逃げ切れることはできません。逃れたと思つても、次から次へと否応なくいろいろなることがやつて来ます。到底逃げ切れるものはありません。であれば、逃げずにどんと受け止めるしかないのです。さらに一歩進んで受け容れてみると、思つていたより大丈夫かもしれないし、もがく中で解決の糸口が見つかるかもしれないし、たとえ結果がどうあれ何かしら学ぶことがあるかもしれないし、案外面白いのかもしれないし……。そして、最終的には、希林さんのように「ありがたい」と言えるかどうか。おそらく、何事もあるがままに受け容れて、そこで懸命に日々を生きていけば、自ずと感謝の念が生ずるはず。大事なものは、懸命に生きることです。一瞬一瞬、一日一日を大事に丁寧に生き切ることです。そういう人が、何事にも感謝して生きることができる人なのだと思います。そして、その感謝の念こそが、南無阿彌陀仏のお念仏なのです。

お念仏と共に歩む人生を送らせていただきますように。

合掌



# 要法経代永総



9月20日から26日迄の秋彼岸中の24日午後7時から、平成30年度浄光寺総永代経法要が、進納者の方々をお招きして営まれました。献灯・献花・献供物の後に読経が始まり、参拝者の方々が順次ご焼香。御文章拝読の後、住職より永代経やお彼岸の由来についてご法話があり、お供物(本山御用達「松風」と記念品が下付されました。永代経は、永代にわたり仏を供養してもらおう為にお寺が永代存続するように、できる人ができる時に進納させていただきます。お互いさまの精神をもって受け継がれて来ましたが、今日では、ご本山の方で災害復興支援などに役立たせていただいています。

## 第17回日本スカウトジャンボリー ご門主1万3千人にお言葉

「未来の地球  
に繋げよう」



大谷光淳ご門主  
ボーイスカウト日本連盟特別顧問

野外活動を通じて青少年を育むスカウト運動の国内最大イベント「第17回日本スカウトジャンボリー」が8月4日から7日間、石川県珠洲市で開催されました。ボーイスカウト日本連盟特別顧問のご門主が開会式に臨席され、未来を担う青少年へ、日々の積み重ねや私たちの行動の一つ一つを大切に、未来へ繋げてゆくよう呼びかけられました。期間中は、「本願寺派スカウトのつどい」も催されました。

仏様へ先祖様に一年の感謝を  
申し上げます

申し上げましょう

月忌納め法要  
(おみがき)  
十二月十六日  
午後一時より

## 秋の日帰りバス旅行

護持会の椎谷副会長からバスをお借りして、10月4日秋の日帰りバス旅行へ行ってきました。5年前に台風で行けなかったみつけイングリッシュガーデンで、いろいろな秋のお花を楽しみました。皆さまも是非ご参加ください。



除夜会法要  
十二月三十一日  
午後十一時半より  
除夜の鐘を  
ついでみませんか  
豚汁の振る舞いがあります

